

基本方針

■計画概要

- ・関西館は、年々増加する図書館資料の収蔵スペースを長期的に確保する役割を担っています。
国立国会図書館全体の書庫の収蔵能力を確保するため、関西館第2期施設の第1段階の整備として、関西館書庫棟が建設されました。今後も所蔵資料の増加に対応するため、段階的に機能を拡充する計画としています。

■機能面について

- ・将来的な段階整備を見据えた動線と設備ルート及び本館との関係を考慮したゾーニングにより、明快な書庫エリアを形成しています。
- ・書架に応じた寸法でモジュール設定することで、約500万冊の収蔵が可能な高密度書架配置計画としています。
- ・書庫内を室温22°C(±2°C)/湿度55%(±5%)を制御目標とし、適正な保存環境を保持するようにしています。

■安全面について

- ・書庫には不活性ガスによる消火設備を設置することで初期消火による資料への損傷に配慮しています。
- ・十分な靱性の確保と適切なブレース配置により、耐震性能の高い構造としています。
- ・構造の応答解析に応じた書架の耐震性能を設定し、書物の落下防止措置を講じています。
- ・地中に接する部分は全て外防水をすることで湧水の浸入対策をしています。

■環境面について

- ・書庫と外部空間の間にバッファゾーンという緩衝帯を形成するとともに外断熱工法も採用することで、外部負荷を抑制し、クールピットにより安定した地中熱を利用することで空調エネルギーの負荷軽減を図っています。
- ・雨水再利用設備を導入し、省資源化を図っています。
- ・屋上南側に太陽光発電設備を設置するとともに、照明設備もLED照明及び照明センサーを採用し、環境面に配慮しています。

■景観面について

- ・本館より高さを低く抑え、かつ幅を揃えることで従属的な関係として計画し、繊細で重厚感のある外装とすることで本館との対比的な調和を図っています。
- ・東西の門型が連続した外装は南側に段階整備を繰り返していく際に外観の一体的連続性を保ちながら資料や情報が増加する印象を作り出すことを意図しています。
- ・本館ガラスキューブに正対した北側の一部をガラス壁面で構成し、廊下中央に自然採光を確保しています。

施設概要

施設名称	／国立国会図書館関西館書庫棟
所在地	／京都府相楽郡精華町精華台8丁目1-3
地区地域	／準工業地域、特別用途地区、 第5種高度地区、法22条区域
主要用途	／書庫
敷地面積	／82,665.38㎡
建築面積	／4,680.24㎡
延床面積	／24,998.07㎡
構造形式	／鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	／地下1階地上7階
高さ	／26.47m
発注者	／国土交通省近畿地方整備局
設計者	／株式会社日本設計
工事監理者	／株式会社礎建築事務所
工事施工者	／五洋建設株式会社 住友電設株式会社 大成設備株式会社
竣工年月	／令和2年2月



 国立国会図書館

令和6年3月発行



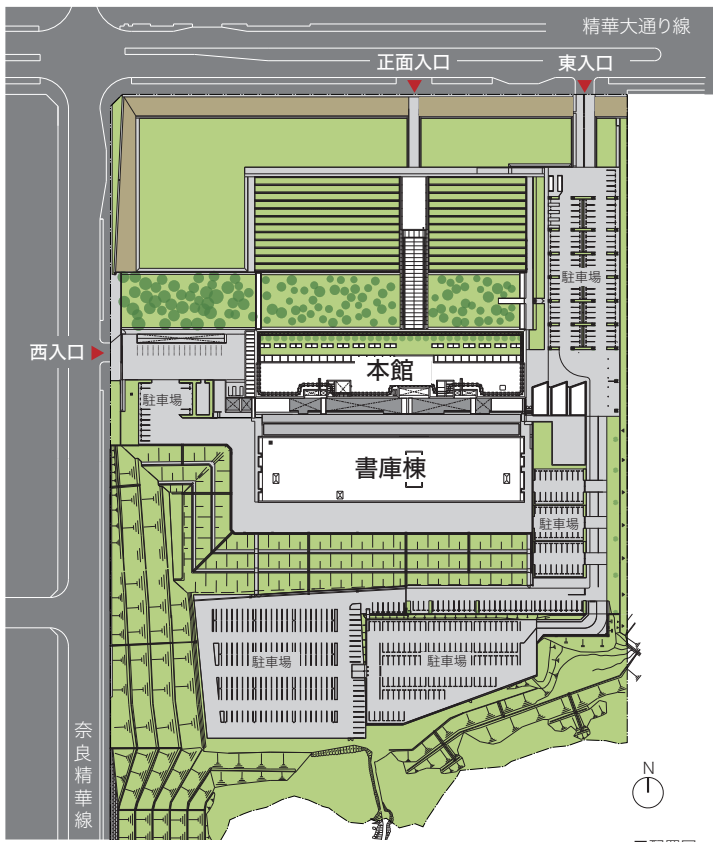
国立国会図書館関西館
書庫棟

Kansai-kan Storage Annex of the National Diet Library

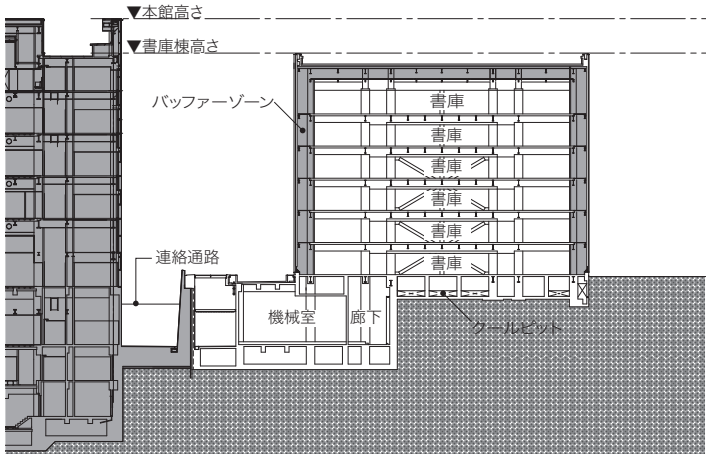


配置構成

本館の南側に幅を揃えて配置しています。
正面入口、東入口は来館者用、西入口は来庁者用としています。



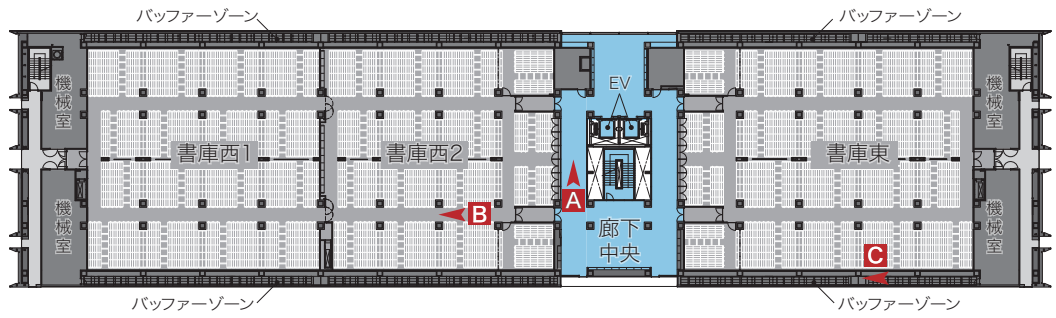
■配置図



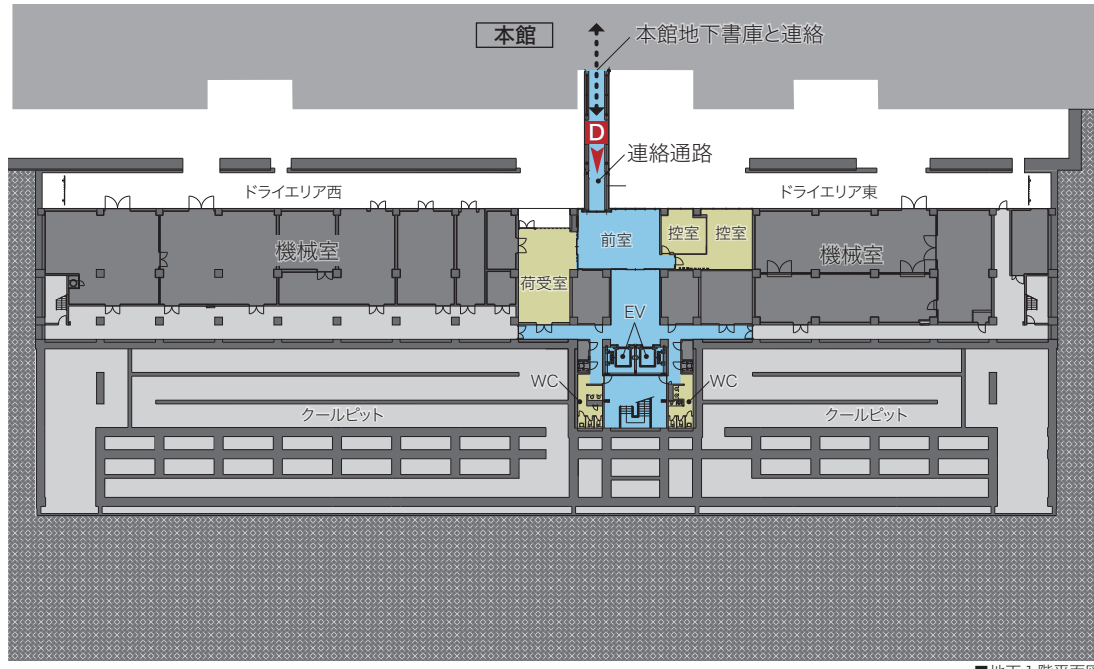
■断面図

平面構成

均等整形スパンを採用しています。階段、EV等の共用部を中央に配置し、その両側に書庫、さらにその両端に機械室を集約しています。将来増築時には共用部の廊下や設備インフラをシンプルに延伸できるようにしています。



■1～6階平面図



■地下1階平面図

断面構成

書庫の空調負荷を抑えるために気積が小さくなるよう最小限の階高設定としています。書庫の外周は外部負荷を抑制するパufferゾーンで三方を覆い、空調負荷の軽減を図っています。



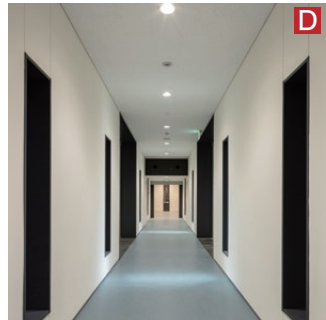
■ガラス壁面越しに見える書庫



■手動ハンドル式の集密書架



■書庫と外部空間との間のパufferゾーン



■本館とつながる連絡通路